

1 年 1 組

 花いっぱい 幸せいっぱい
『カラフルハッピーかだん』


花がいっぱい咲いたら気持ちがよくなるよ

教室の前に花壇があります。何も植えていない4月の花壇は殺風景でした。子どもたちと、「夏に向けて花がいっぱいの花壇にしようよ」という話になりました。Aさんは、「花がいっぱい咲いたら気持ちがよくなるよ」Bさんは、「幸せだなんて感じられる」と話しました。「そうだ、花壇に植える花、ひまわりはどうか。ひまわりは夏に咲くよ。黄色で元気が出そうな色だよ」とAさんが言いました。「夏の花は朝顔。朝顔は夏に咲くよ。虹色の朝顔があるって聞いたことがあるよ」とCさん。その「虹色の朝顔」と聞いて、みんなで「本当に虹色の朝顔ってあるのかな。虹色になったらすごく楽しい気持ちになるね」と未来を思い描きながらワクワクが膨らみました。その後の話し合いでひまわり・朝顔・スイカ・メロンを花壇で育てることになりました。話し合いの最後に、この花壇に名前をつけようということになりました。「にじいろ」「カラフル」「ハッピー」という声が多く、「カラフルハッピーかだん」という名前になりました。夏が待ち遠しくなりました。



朝顔さんのお父さんお母さんになりたいな

『カラフルハッピーかだん』づくりに向けて、5月に朝顔さんの種（赤ちゃん）と出会った子どもたち。自分たちは、お母さんのお腹の中で約十ヶ月かけて成長しこの世に誕生したことを子どもたちと話しました。Dさんは、朝顔の種をよく見ながら、「ここが、朝顔のおへそかな。本に、おへそじゃないところに傷をつけてあげると芽が出やすいって書いてあったよ。鳥さんみたいにツンツンしてあげたいな」と話しました。Eさんは、「わたしたちがお母さんのお腹の中にいたように、お水に入れてあげたら気持ちいいんじゃないかな」と言い、種が入ったカップに水を入れました。水中の朝顔の種を見つめるFさんが、「どっちも浮かんでない」と不思議そうにしているとGさんが、「わたしのは、一つは浮かんでいて、一つは沈んでいる」とお互いの種を覗き込みます。そこから、「じゃあ、名前はしずみちゃんにしようかな。浮いている方は、うきちゃん」と名前が決まっていきました。



翌日、一番に教室に来たFさんが朝顔の種を見つめると、種の皮にヒビが入り中から白い物が見えていました。Fさんは、驚きながら教室に入ってくる友達に知らせます。子どもたちは、「えっ、本当だ。あんなに固かったのに、軟らかくなっている」と触って確かめていました。「早く土のベッドに寝かせてあげよう」と、ポットに土を入れ、そこに寝かせてあげました。一粒一粒に名前をつけ、「大きくなってね」「きれいな花を咲かせてね」と声をかけていました。

3・4日経った頃、土の中から緑や赤紫の芽が出てきました。Gさんが、「わたしの、芽が出てる」と嬉しそうに水やりをしていました。次の日には、Hさんが「昨日は出ていなかった芽が今日のは出てる。昨日は、ハートの形だった葉っぱが、今日はちょうちょの形になっている」と違いを見つけました。朝顔さんの成長や変化を見ることが毎日の楽しみになりつつあります。



「草を抜かないと苦いスイカになっちゃう」

I組の『カラフルハッピーかだん』のメロン・スイカ・朝顔・ひまわりたちがだんだんと成長してきました。成長するのは、それらの植物たちだけではなく、雑草も成長します。水をあげればあげるほど、雨が降れば降るほど雑草も増えていきます。すでに子どもたちは「雑草は植物の成長にとってよくないもの」との認識を持っている子が多い様子でした。Iさんは、「まだここに草があるよ。抜こう。」と言って草を抜き、抜いた草をビニール袋に入れてどれだけ草を抜いたのか確かめていました。Jさんは驚いたように、「うわあ、めちゃくちゃすごいのがあった」と長い根っこのついた草を抜いていました。Kさんは、「草抜かないと苦いスイカになっちゃう」と言って草を抜き、ちょうどその頃国語で学習していた『大きなかぶ』の一節にあるように「あま〜い あま〜い おおきな おおきな スイカになあれ」と声を掛けていました。Lさんは、「先生、メロンの花が取れちゃった」と心配そうに私を呼びます。Yさんは、「メロンのお花は花びらが1・2・3・4・5、5枚ある」と花を観察しています。ある班のスイカの様子を見て私が、「あれ、このスイカ小さいね。新しいのに植え替えなくていいの」と聞くと、「違うよ、これ枯れていたのがだんだん大きくなってきたんだよ」とMさんが言います。このように、花壇のあちこちから子どもの声が聞こえてきます。順調に成長しているものもあれば、枯れてしまいもう一度植え替えることになったものもあります。自然と「僕たちのメロン」や「スイカさん」というように、植物に愛着を持ち始めた子どもたち。夏の暑さや虫たちに負けずお世話をして、植物も子どもたちも成長してほしいなと思います。



ふしぎがいっぱいカラフルハッピーかだん

7月に入るとNさんが「先生、メロンの実出てるよ」と言いに来たので見てみると、ポツポツとメロンやスイカの実が付き始めていました。Oさんは、「初めてスイカができたよ。大事に育てたいな」とスイカを撫でながら言います。今ではその実が直径15cmほどまで大きく育っています。しかし、順調なものばかりではありません。大きく育ってきたスイカが、7月10日の朝見てみると、割れて中が食べられていたのです。子ども達は呆然と立ち尽くす子もいれば、「羊のモナちゃんが食べちゃったのかな」「モナちゃんは小屋から出ていないよ」「カラスじゃない」「キツネとかかもしれないよ」と、何者の仕業なのかを予想する子もいました。Pさんは、「ちゃんと種ある。半分に割れているから中身の様子が見やすいね」と、スイカの中の様子をじっくりと観察していました。翌日11日に別のスイカをよく見ると、スイカの重みでツルがちぎれそうになっているものもありました。結局その翌日、ツルが切れて落ちてしまいました。子ども達は、育つ喜びと共に、育てる難しさを体験的に学んでいるようでした。



他にも不思議なことはまだまだあります。7月13日の朝、朝顔を見てみると、花びらにポツポツ穴が開いており、幼虫が花を食べては赤い糞をしているのです。これはどうやら蛾の幼虫のようでした。15日にはまた食べられたような朝顔がありました。しかし、赤い糞は全くないのです。もともとこういう形の朝顔なのか、それとも何かの虫に食べられたのか…。花壇にはたくさんの虫や生き物が来ます。花粉を運んでくれる蜂。花や実を食べてしまう虫や生き物。植物と生き物とは切っても切れない関係であることも毎日の観察から感じ始めている子ども達です。雨の日、青い花の朝顔が雨粒に濡れると赤色に変色していたり、メロンの苗から謎の大きな黄色い花が咲いたり、『カラフル ミステリー かだん』とも言えるほど色々な発見や不思議があります。最近では、朝顔を使って色水遊びをする子も増えてきました。赤紫の花なのに、お空と同じ青色の色水ができました。またここにも不思議がありました。

